

## 2025年万博基本構想検討会議（第3回） 議事録

### 【開催概要】

- 1 開催日時 平成28年9月29日（木） 14時00分～15時00分
- 2 場 所 ホテルプリムローズ大阪 鳳凰の間（東）
- 3 出席委員

#### <有識者>

江原委員、太下委員、嘉名委員、澤田委員、玉井委員、中村委員、橋爪委員、増田委員、溝畑委員、宮田委員

#### <行政>

新井委員、伊吹委員、田代委員（代理：種村副町長）、  
田中委員（代理：井上経済戦略局長）、田村委員、辻委員（代理：宮崎副市長）、  
野崎委員

#### <経済界>

出野委員、児玉委員、齊藤委員

### 【議事次第】

- (1) 2025日本万国博覧会基本構想府案の検討状況の中間報告について
- (2) その他

### 【配布資料】

- 資料1 : 「2025日本万国博覧会」基本構想（素案）【概要版】  
資料2 : 「2025日本万国博覧会」基本構想（素案）  
参考資料 : なぜ、大阪で健康・長寿をテーマにした万博なのか？

### 【内容】

#### ○事務局

事務連絡、配布資料の確認

資料2 「「2025日本万国博覧会」基本構想（素案）」について説明

#### ○橋爪副座長

それでは、委員のみなさまからご質問、ご意見等お願いいたします。30分ほど時間を取っていただいております。全員ご発言いただくとした場合、一人2分程度でお願いいたします。では、挙手でお願いいたします。お願いします。

#### ○増田委員

では、最初に失礼します。全体で、以前の基本構想と比べましたら、随分とよくなってるなと感じました。最初の基本理念のところについては、現状を認識した中で、何かぼんやりとした感じでしたが、今回の案では例えば 1 ページ目に大きく三つの基本構想を掲げてます。それぞれに最後の 2～3 行に、やるんだという意思表示がしっかりされているところが、とてもよくなったと思います。あとそれで全体見ましても、なぜ日本で、なぜ大阪・関西なのかという中でも、「天下の台所」という言葉が入ってきたり、私が最初のお話させていただき「笑い」も入れていただいたり、インパクトが強く打ち出されているというのを感じました。ちょうど 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックが終わった翌年、日本で初めてワールドマスターズゲームズという大会が関西で開催されます。それはまさに健康・長寿のお手本になるような、体現しているような方々が、世界中から関西に集まりますので、何かそことのつながりをもって、そこで素晴らしい競技をされた方々が 2025 年の万博を楽しみに来られるようになればいいなというふうに思っています。ありがとうございました。

#### ○橋爪副座長

ありがとうございました。いかがでしょうか。お願いします。

#### ○野崎委員

すみません。厚生労働省の野崎と申します。全体のコンセプトは非常に新しい 2025 年に向けた新しい長寿社会の中での、社会のあり方とかコミュニティのあり方という非常に活きのいいテーマで、かつ的を得ているテーマだと思いますので、非常に良いかと思えます。私もなかなか参加できなかったですけども、まとめていただいて、ありがとうございます。実際これから具体化していく際に、こういう広いテーマの下でどういうものをしていくかということについて、少ししゃべらせていただきたいと思うんですけども、WHO がエイジ・フレンドリー・シティーズというアイテムを出しております。そこには 8 つの領域がありまして、健康医療とか福祉サービスというのは、そのうちの一つに過ぎない。あとは、住まいであるとか、交通であるとか、社会参加であるとか、そういうような非常に幅広い観点を掲げているんです。ですから、先ほど冒頭に申し上げたように、基本コンセプトである新しい社会のあり方、コミュニティのあり方ということを実体化していく際にも、やはりそういうことを視野に、念頭において、やっていったらどうかと思えます。先ほどの部会でも自動運転どう考えるかということもございました。交通を考える際にはもちろんそういうことも必要ですし、また健康、高齢者のみならず、障がい者の方も健康で、生きがいをもって暮らせるというようなこともテーマの具体化の中で、取り入れていければ、よりよいものになるんじゃないかなというふうに思いますので、是非今後とも具体化にあたっては、考慮いただきたいなと思えます。

○橋爪副座長

ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。

○澤田委員

理念部会でも申し上げたのですが、基本理念がちょっと長いんじゃないかなという気がしています。もう少し絞って、理念ってシンプルな方がいいんじゃないかなということと、それから今ご発言がありましたけれども、やはりパリに勝たなきゃいけないということを考えると、やはり国際機関との連携はすごく重要になると思います。WHOが言っている健康という概念に則した形での理念を書かないとまずいんじゃないかなと。むしろ、そうあるべきだと積極的に思うんですね。ただ今の理念があまりにも内なる健康にちょっと特化しすぎているところがやや問題で、なんとなく健康医療博みたいになってしまうんじゃないかなと。それよりももっともっと大きく社会全体を捉えた、人類全体という課題があるんだということを日本がどう捉えて、何をしようとするのかという強いメッセージを出せるといいな、ということをおもっておりまして、さらなる工夫をしていただければということがあります。二点目は、意義のところですが、これも国内向けになりすぎているという気がしていて、お金出してやるのは国内の方々なので、すごく重要ではあるんですけども、やはり今回立候補で世界の百何十か国から支持を得なきゃいけないので、そういう意味で言うと、世界においてどういう意義があるのか、日本で開催するどういう意義があるのかということ、日本が何ができるのかという視点で世界に向けた主語で書いた方が世界から理解されやすいというふうに思われます。それから、テーマ案のところ、やはり英語に長寿という言葉がなく、日本語に長寿がある、この辺りは、両方わかっている人は日本人だけだから、いいっちゃいいんですけども、この辺の折り合いをつけておかないと指摘されたときに説明がつかないだろうという気がしておりまして、長寿というのは健康の結果だと思われまして、社会全体を捉えた方がいいんじゃないかというふうに思います。そういう意味で言いますと、サブテーマで何度も申し上げて、申し訳ないんですが、「社会」というのがWHOでは非常に重要なテーマだと掲げられているのにもかかわらず、「社会」というのを落としているのはサブテーマとして非常に問題だと思います。

○橋爪副座長

ありがとうございます。他はいかがでしょう。

○嘉名委員

基本構想以外の参考資料というのを眺めていると、これはかなりの力作で、なぜ健康長寿をテーマにしたのかというのは何かということ、大阪の強みみたいなことがあらゆる角度で書かれています。そのことのエッセンスがこの基本構想の中にできているという理解をしています。先程来、健康という話がすごくキーワードとして出ているということ

なのですが、私は専門が都市計画なものですから、例えば、私が海外の方々に、関西あるいは大阪の特徴をご説明するとすれば、世界でも突出して公共交通の分担率が高いライフスタイルを送っているであるとか、しかもその一部を民間事業で担っている。これはやはり是非海外の方々が真似したいというか、参考にしたいということだろうというふうに思います。さらに言うと、大阪は、特に大阪市なんかは、自転車の交通分担率が極めて高いです。これなんかも今パリなんかは、一所懸命ヴェリブというレンタルサイクルを入れようとして、なんとか自転車の分担率を高めようとしていますが、大阪あるいは関西ではそういう意味ではかなり先を見ている、そういう健康とか長寿につながる、実は都市生活を送っている地域なんだというのは、非常に強みになるんじゃないかなと思っています。この辺りを少し盛り込んでいただけるといいのかなと思っています。以上です。

#### ○橋爪副座長

それでは、お願いします。

#### ○溝畑委員

非常に難しいかもしれませんが、健康・長寿というのは一体何をもって健康・長寿というかですね。例えば、スポーツジムで運動をして健康になって、サプリメントのようなものでストイックに規制かけている状態が健康・長寿なのか。めざすべき健康・長寿のイメージというのは、おそらくノーストレス、ノープレッシャーで、自然体に思いっきりご飯を食べて、スポーツして、恋をして、思いっきり楽しむ、これがめざすべきゴールなんだと。そのあたりのイメージがないので、スポーツジムでがちがちにダイエットしてとかいうのが健康のイメージとして持っているんじゃないんですか。その辺の健康・長寿のイメージをもう少し、今後みんなを巻き込むためには、少し掘り下げていった方がいいのではないかなと、これが一つ目です。二つ目は、やはり2020年東京オリンピック・パラリンピックというのがあって、障がい者の方々を健康・長寿の枠組みでどう捉えていくのか、やはりオリンピックやって、そこでやはりパラリンピック成功したと、5年後はバリアフリーがもっと浸透して、これを大阪府内から世界に向けて、パラリンピックのレガシーとして取り入れるのを強調するという意味で、もうちょっと障がい者というのをもう少し前に打ち出しておかないと、なんかこの文章の中に障がい者というフレーズが出てこないで、これがあるのではないのかなというのと。三つ目は、先ほど会議がありましたけれども、やはりなぜ2025年に大阪でやるのかというときに、パリに対抗するという意味で、やはりなぜアジアでやるんですかということも今後の戦略として、アジア票とかその周辺の票を取り込むためにも、アジアのそういったノウハウをうまく取り込みながら、その中で大阪が象徴的にそれを取り込んでいるというのも。これ非常に難しいのは、あまりそれを言すぎるとアジアとその周辺以外の票を失ってしまう可能性もありますし、これ非常に難しいんです。これはまた、伊吹委員をはじめ、ロビーしながらなんですけども。私が2002年

のときは、アジアで最初のワールドカップというのを打ち出して、それはやはりメキシコとかほかの国を追い出すことをやってきたので、そういうことも考えていかなければならない。まず、どっちかという今後の誘致合戦を念頭に置いたのは三点目で、一点目・二点目はちょっと健康・長寿というもののイメージ、ゴールのイメージと、二つ目はパラリンピックのレガシーとしての障がい者の方々、あるいは介護を受けてる方、こういう人たちを健康・長寿にどういうふうに導いていくのかというトーンをちょっと入れるのかなという感じがしましたので、ちょっとご意見として申し上げました。

○橋爪副座長

ありがとうございます。

○宮田委員

慶應大学の宮田です。今みなさまの意見と同じように、テーマ自体をどう洗練させていくのかというところが、非常に必要な気がします。WHO が掲げている概念を踏襲した上で、それだけではなくてこの概念自体がもっと先を行くと。万博に来た人たちの価値観を変えるぐらいのやはりそういう強いメッセージが必要な気がします。今の状態だと、やはり長寿ということに引っかかって、引っ張られてですけど、健康医療という印象が拭えないですね。そうじゃなくて、先ほどおっしゃっていたように、魅力的な生き方を追求しながら、自然健康になる、あるいは障がい格差があったとしても、それが人生の妨げにならない、人生をいきいきとすることだよ、と生きることができる、こういうものが我々の考える新しい健康なんだ、健康というのかは別として、この概念そのものがこの万博で変わっていくと、病気にならない、あるいはただ長く生きる、とこれではない。この大阪から、この世界の健康という概念は新しくなるんだ、それが日本でやり、あるいは万博という枠組みの中で開発途上国の方々に対するメッセージなのだと。生まれた場所、あるいは持っている資産、そういったものに関わらずに皆がハッピーになっていけるような、こういう取り組みをこの万博で行っていくんだと、こういう強いメッセージが必要になってくる。それがわかるような簡潔なテーマというところに向けて、より洗練していくと。このコンセプト自体、この立ち位置自体はすばらしいと思いますので、そこに向けて洗練させて行けば、よりよくなるかと思います。

○橋爪副座長

ありがとうございます。他はいかがでしょうか。

○太下委員

万博に向けての盛り上げということで 1 点コメントをさせていただきたいと思います。7 ページの事業展開で「万博開催前から、世界に向け広く健康・長寿にかかる「知の創造」

を呼びかけ」とありますし、13ページ目の開催期日・期間のところでは、「開催前の取り組みとして、プレイベントなどを開催することにより、万博開催に向けた盛り上げを図ることとする」とあります。この展開案のように、半年、6ヵ月間と定められた万博開催の期間だけではなく、それ以前に万博のムーブメントが拡大しているという取り組みは非常にいいと思うのですね。この万博と相対で語られる国際イベントとしてオリンピックがありますけども、ご案内のとおり次のオリンピックは2020年に日本で開催されますが、実はスポーツイベントとしてのオリンピックは2020年の夏に開催となりますけれども、そのプレとして文化プログラムが丸4年間、今年の秋から足掛け5年間かけて行われることになっています。今年の10月には京都と東京で「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム」という国際的なイベントが行われますし、それを契機として全国で政府の目標によると20万件のプログラムをやっていくという構想になっているのです。実はこういった形での、オリンピックに先立って丸4年間全国で盛大に文化プログラムやっていくという動きは2012年のロンドンオリンピックで盛大に実施されたのです。余談になりますが、ロンドンがオリンピックに立候補した時にライバルとしてパリが立候補していました。パリが本命視された中でロンドンに勝った理由はいくつかあるのですが、その大きな1つの理由が実は文化プログラムで開催まで4年間ずっとやっていきますということでした。オリンピックブームを盛り上げるとともに国民の参加も促すというその戦略が非常に評価高く違ったということです。2025年の万博もパリがライバルと目されていますので、参考になるエピソードだと思います。また、もう1つ参考になる事例として、スコットランドにおいて毎年10月の1ヵ月間、スコットランド中で高齢者が主体となったアートフェスティバルが開催されています。この高齢者というのは認知症の当事者を含んだ形で、高齢者もいきいきとアートを通じて社会参加をするというフェスティバルになっています。フェスティバルというと、日本人は華やかなイベントをイメージするかもしれませんが、このスコットランドの事例ではほんとに小さなコミュニティとかでやってるささやかなワークショップ等のプログラムも含めて、スコットランド全体で400ぐらいのプログラムが参加しています。こういう取り組みを、この2025の万博前に関西全体でずっとやっていくと、そういうことがこの万博に向けた盛り上げになるとともに、従来とは違う万博の新しいスタイルを打ち出していくこととなり、そして、さらにそれがレガシーとなってブームメントになって継続されていくのではないかと思いますので、ぜひ2021年のドバイ万博が終わった時点からそういった動きをはじめていくべきだと思います。高齢に伴う問題というのは経済的な貧困であるとかいろいろありますけど、意外と見過ごされがちなのが「社会的孤立」です。社会的孤立はいろんな疾病とかを生み出す原因ともなっていますので、アートプログラム、アートに限らなくてもいいんですけど、アートがわかりやすいので文化プログラムを通じて高齢者の社会参加を促し、そして、自立的な健康というものを考えていくことが重要だと思います。そういうプログラムを5年間かけて万博にむけてやっていく、そういう動きについてもぜひご検討いただければと思います。

#### ○橋爪副座長

はい、ありがとうございます。他にございますでしょうか。はい、お願いします、

#### ○江原委員

大阪万博が開催される 2025 年に焦点をあててみたいと思います。先ほど、澤田委員から、“これからの万博では東アジア全体のこと考えなくてはいけない”というお話がありました。この点について、世界の 3 大イベントといわれている、サッカーワールドカップ、オリンピック、そして、万博について考えてみました。その 3 大イベントの今後のスケジュールですが、来年はカザフスタンのアスタナで万博、その翌年の 2018 年は韓国の冬季オリンピック、それとロシアでサッカーの世界カップ、2019 年は中国北京の花博と日本ではラグビーワールドカップがありますね。この 2 つは、3 大イベントではありませんが。そして、2020 年は東京オリンピック・パラリンピック、そして、ドバイ首長国でドバイ万博があります。さらに 2022 年に北京で冬季オリンピック、カタールでサッカーワールドカップ、そして、2025 年に大阪で万博ということになります。こうしてみますと、世界のビッグイベントが東アジアよりも広いユーラシア大陸で開催されるわけです。世界が注目するビッグイベントがユーラシア大陸で開かれるわけです。2025 年の大阪万博は、その締めくくり役ということになるのではと思いました。大きな意味があると思います。世界に何か大きなメッセージを発信する大変な機会を得ていると思います。大阪万博のテーマの健康は、サッカーでもオリンピックでも、そのほかすべての場面、全ての人の未来に関わっています。2025 年の大阪万博はすごいめぐり合わせの中で行われるわけです。“人類の健康・長寿への挑戦”というテーマに世界が共鳴するそんな万博にしたいと思いました。そのために、例えば、会場に予定されている夢洲は世界のゼロ・エミッション・シティであるといったメッセージの発信もいいのではないかと思います。もちろん、健康とは何か、長寿とは何かというのをメッセージとして出していくのもよいでしょう。大阪万博で、健康宣言を出し、夢洲を、新しい大阪を、関西を、日本を世界に発信したらいいのではないかと思います。水を差すわけではありませんが、今、大阪万博の開催に向けて対外を意識した対応が希薄のように思います。国内向け対応はうまくいっていると思います。対外対応はこれからが本番ということかと思いますが、先ほどお話したように、2025 年というのは、世界に対して大阪、関西、そして日本を発信する上で、願っても得られないような時の利を得ていると思われま。世界を意識した大阪万博であって欲しいと思います。最後になりますが、今日、新幹線のニュース配信のテロップで、毎日新聞だったと思いますが、大阪万博のことが流れていました。政府が 2025 年の万博に大阪が立候補する方向で調整している、そんな内容であったかと思いますが、偶然、目に留まったのですが、大阪万博が具体化しつつあると思い、わくわくしました。2025 年が身近になったようなそんな気持ちになり、ぐっと感じるものがありましたね。以上です。

○橋爪副座長

ありがとうございます。他はいかがでしょうか。お願いします。

○中村委員

時間がありませんので、二つだけ。基本理念のところ、例えば2ページの2の最後の所に、「2025年にあって、長寿時代の新たなライフスタイルやコミュニティの在り方の提案を通じて、明るい未来に向けたはじまりとなる節目の年」。障がい者のこと、WHOでは健康とか住居や社会が入っているなどと皆さん考えてらっしゃる。そうおっしゃっていたことを含めて、私は基本理念のところ、長寿時代のと決めつけしないで、ここは「みんながいきいきと生きられる」としたいと思います。長寿は具体的に落としていく時にはあってもいいと思うのですが、基本理念のところ、こう決めつけるのは、あまりにも狭すぎる。みなさんの今までのお話をうかがっていると、「みんながいきいき生きられる」という感じの言葉にしておいた方がいいのではないかと思います。

それから2番目に6ページのサブテーマの解説で、科学技術の発展、文化の多様性と地球環境とあります。これは大きなテーマとしてよいのですが、科学技術について少し考えたい。今日にここ来るまでにゲノム編集の議論をしたのですが、今このような技術が進んできています。そこで、みんながコンセプトをきちんと持って、どう使っていくかということが、非常に大事。AIもそうだと思うのです。そんな気がしていますので、ここで発展としてしまうよりは、何というのがいいのか分からないのですが、「使い方」みたいな。科学技術をどう使っていくか、人間のためにどう活かしていくかということ、をきちんと出しておいた方がよいと思います。発展と言ってしまうとただ進めるという感じになりますので。もちろん発展もありますが、私たちのためにみんなのためにみんながいきいきするためにどう使うかということ、をきちんと考えようというメッセージが今、科学技術にとって大事です。

○橋爪副座長

ありがとうございました。お願いします。

○伊吹委員

1つは報告なんですけど、パリのことが出ていますけれども。正確に共有しておきますと、9月14日のフランスの閣議で、概ね数週間以内のできる限り早い段階で立候補するというふうに首相が報告して、誰も異論を唱えなかったということなんですけど、この数週間が2、3週間なのか、7、8週間なのか、よく分かりませんので。もう1つは、正式にBIEに通告してくると、ある期間の間にほかの国は正式に意思決定をして立候補していかなくちゃいけないんで、お尻が切られるという意味で、みなさんと頑張って、スピードアップをしてしかななくちゃいけないということですので、頑張っていきたいと思います。



あと、カナダ・トロントとか、マンチェスターとかロシアとか、アゼルバイジャン・バクーとか、いろいろ名前が出てるんですけど、決定的な動きを示しているところは今のところ無いので、今のところはパリを想定していろんなことを考えていくのかなというふうに思っております

中身については、皆さんからも出ているところなんですけど、健康医療博っぽくなくて、もっと幅広く考えていくという意味では、言葉はスポーツとか衣食住とか入れて頂いているんですけども、いろんな企業の方に参加して頂くには、特に「食」ですかね。「食」なんかはもう少しある程度プレイアップしていいということと、それから、先ほど健康戦略の話が出ていましたけれども、これをやっていくのは一つのマイルストーンとして、関西地域・府民の方々がどういうふうになっていくのか、例えば、健康寿命がどれくらいまでいくことを目指して、その過程で万博をどう位置付けていくのかという観点を、いろんなサービスを受けるかという観点を入れると、もっと面白いものになるのかということですので、細かいことを決めていくときにはそういう議論をして頂ければと思います。

○橋爪副座長

ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

○玉井委員

今までいろいろ議論されてきたところですけども、素案の中には、ほぼそれが網羅されていると思うんですね。私なりに整理しますと、地球の人類の人口問題ですとか高齢化問題とか、今までと違う問題が山積してきて、それを克服して、みなさんがどう生き生きとストレスフリーできるかということが目的かなと思うんですね。この万博は、これをどう対処していくかと過程を見て頂いて、みなさん気づいて、こうすれば若い人もお年寄りもみんな幸せになる、気づいていただける万博かなと思うんですね。私、当初お話ししましたと思いますけど、時間軸については、ずっと前から社会の実装を準備していったらいいと思うんですね。実装された現場を見て頂く、しかもパビリオンで見て頂くんじゃなくて、実装した社会、あちこちですね、街角でもいいですし、街中が参加してもいいですし、地域の住民が参加してもらって、こんな広がりもあっていいかなと思います。テーマはテーマでパビリオンを見て頂いたらいいと思うんですけど、地域が全員参加して、「どうや、この社会、見てください！」という万博にぜひしたいなという感想です。ほかに、そういうことがわかるイメージとか映像を、イメージのきれいなグラフィックを澤田委員に作っていただきたいと思います。みんなそれ見たら、ぱーんと、今回僕らが何をしたいかわかる絵ですね、ぜひ出したいと思います。

○橋爪副座長

ほか、いかがでしょうか。

○田村委員

意見ではなく質問なんですが、パリのお話があって非常に興味深かったんですが、パリはどのようなテーマで動いているんでしょうか。

○伊吹委員

今、我々が聞いているのは、「ホスピタリティ」というテーマでして、わりとばくっとしていると思うんですね。一方で、報道ベースですので本当かどうかはわかりませんが、パリ市長さんは「環境・エネルギー」。去年、COPで地球温暖化の計画を決められているので、それがパリで開催されてたんですね。なので、2025年というのは、パリから見るとそこから10周年ということなんで、そういうふうにすべきじゃないかという意見もあるらしいので。正式には「ホスピタリティ」なんですけど、まだ全員が納得しているかという、そういうことでもない聞いてます。

○田村委員

ありがとうございます。

○橋爪副座長

ありがとうございます。お願いします。

○齋藤委員

今まで、どなたも経費についての話をしていないので。コンセプト等は私も異存はないんですけども、実現可能性のある経費のあり方、それも合わせて考えて頂かないといけないだろうと。これまでと比べて、1,200億から1,300億ですから、300億くらい減っておりますので、これはこれで大変結構なことなんですけど。工夫の仕方として、例えば、どなたかおっしゃってますけれども、夢洲全体の開発の中で、今回はどういう位置づけなのか。それで、実際に夢洲の開発をする時に必要なインフラ整備というのがあると思うんですね。それは、埋めては掘り起しと、そういうことでは無くて、二重投資にならないような、そういう工夫を、もっともっと考えて頂かないと、いったい誰がお金を出すのかということで、行き詰ってしまうと思います。これはぜひよろしくお願ひしたいと思います。それと、もう一つは、先ほどスマートシティがいいじゃないのか、これは私どもも賛成です。元々、同友会は夢洲全体をスマートシティにしようという構想を既に打ち出しておりますので、ぜひそれも取り入れた計画にして頂きたいなと思います。その時に、日本語としてはこなれてないんですけど、wellnessという概念を入れてるんですね。Our healthのhealthとwellnessがどう違うのかという学者的な論争をしたくないんですけども、wellnessみたいなコンセプトをうまいこと英語に落とし込む、あるいは人類の健康・長寿への挑戦というのに、もうちょっと英語っぽくできないかなと、そういう感じがしますの

で、おそらく、伊吹委員がおっしゃっていましたが、健康医療博になってはいけないということじゃないかなと思います。その辺を、いい知恵があれば、皆さんの中で考えていただければと思います。

#### ○橋爪副座長

ありがとうございます。ほぼ、予定の時間となっております。最後、どなたか発言ございましたら。よろしいでしょうか。それでは、ここで意見交換を打ち切らせて頂ければと思います。様々なご意見を頂戴いただき、ありがとうございます。

素案に関しましては、これまでの会議で、みなさまから頂きました意見を全体的によくまとめた案だと私も思います。基本的な方向性に関しましては、本日も強い異論等はなかった、むしろ評価頂いたと思います。今後は事務局におきまして、本日のご意見や議会の意見などふまえながら、次回の全体会議にご報告いただければと思いますが、そういう進め方で、よろしいでしょうか。

ありがとうございます。ご異論なかったということで、事務局の方で、そのように作業を進めて頂くようお願いいたします。

進行役なんで、自分の意見を全然言えていないので、1つだけ最後に。本日、やっとベイエリア、夢洲で開催ということで、公に案として出したということになります。ベイエリアの開発の歴史ということは、私の研究テーマの1つなんですけど、江戸時代まで遡る中で、健康・長寿というのはベイエリアと非常に関係がございます。例えば、江戸時代は天保山という人工の山がありまして、そこは不老長寿の蓬莱山のイメージで環境整備がなされた。それが名所になります。明治時代になりますと、海辺に医療の保養所がいくつもできました。浜寺にもありましたし、天保山、築港にもございました。明治末から大正時代になりますと、大阪のベイエリアには、いくつも都市型リゾートが誕生しました。たとえば大浜とか大阪の築港あたりでは、大阪湾の海水を沸かして、健康のためにお風呂に入る大規模な温浴施設である潮湯場の類が開業しました。そこにはエンターテインメントの舞台があり、また食事を提供していました。温浴ができるテーマパークのような複合型のレジャー施設でした。今日もいくつかご意見ございましたが、そういう温泉とか食文化など、日本独自の、あるいは関西に固有な健康とか、よく長く生きる、well being に関わる独自の保養文化というものを、今回の博覧会のテーマ、大事な要素の1つだろうと考えております。取りまとめた後に少し補足させて頂ければと存じます。ということで、ありがとうございます。

議題の2でございます。その他ということですが、事務局何かございますでしょうか。

#### ○事務局

事務連絡

○橋爪副座長

ありがとうございます。何かご質問はございますでしょうか。

先ほど、ありましたように、パリが立候補するということから、6か月ですか、の間に、我々が、日本国が立候補していかないと間に合わないということです。かなり後ろの日程が限られる中で、次回は基本構想府案、今日は素案と付いていますが、これを外す形で進めてまいりたいと思いますので、よろしく願いをいたします。

それでは、本日の議題は以上でございます。第3回全体会議を閉会することとし、進行を事務局の方へお返しいたします。

○事務局

事務連絡

政策企画部長からあいさつ

【閉会】